

日医ニュース

No. 1356
2018. 3. 5

発行所 **日本医師会**
Japan Medical Association
〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail wwwinfo@po.med.or.jp
http://www.med.or.jp/
毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



日本医師会キャラクター「日医君」

- ピックアップ**
- 第6回「日本医師会赤ひげ大賞」表彰式 2~3面
 - 「横倉義武先生 世界医師会会長就任祝賀会」を開催 4面
 - 平成29年度日本医師会医療情報システム協議会 5面

中央社会保険医療協議会総会

平成30年度診療報酬改定に関する答申まとまる

当日の総会では、厚生労働省事務局からこれまでの議論を踏まえて作成された個別改定項目、いわゆる短冊に具体的な点数を盛り込んだ答申案が示され、診療・支払両側がこれを了承。答申書には、(中略)入院医療機能のより適切な評価指標や測定方法等、医療機能の分化・強化、連携の推進に資する評価の在り方について引き続き検討すること。等、20項目からなる附帯意見が付けられることになった。

答申の取りまとめを受けて、診療側を代表して意見を述べた松本純一常任理事は、まず、中医協の議論について、「燃えるような情熱を持って臨んだ」とする一方、「議論を終えて、今は自分に対し煮えくり返るような感情でいっぱいである」と述べるなど、より充実した議論ができた可能性もあったのではないかと、また、今後の展望として「地域医療構想のの下の、無理に病床の削減を図らなくとも、人口減などで確実にベッドは減っていく。すなわち、医療費は減少傾向を辿る」との認識を示した。

なお、日医では、今回の答申取りまとめを受けて、改定の内容を伝達することを目的とした、都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会を3月5日に開催することとしている(本紙4月5日号で詳細の予定)。



中医協総会が2月7日、厚生労働省で開催され、平成30年度診療報酬改定に関する答申がまとまり、田辺国昭中医協会長(東京大学大学院法学政治学研究科教授)から加藤勝信厚労大臣(代理:高木美智代厚労副大臣)に提出された。これを受けて日医では、同日、日本歯科医師会、日本薬剤師会及び四病院団体協議会と共に、相次いで記者会見を行い、横倉義武会長が今回の改定に対する日医の考えを説明した。

三師会合同記者会見

少ない改定財源の中
一定の評価ができた
認識 横倉会長

三師会合同記者会見には、横倉会長、堀憲昭日歯会長、山本信夫日薬会長(代理:森昌平同副会長)を始め、中川俊男副会長(中医協委員である)、今村聡副会長、松本純一・松本吉郎両常任理事、遠藤秀樹日歯常任理事、安部好弘日薬常務理事が出席した。

横倉会長は、「国民が生涯にわたり健やかでいきいきと活躍し続ける『人生100年時代』を見据えた社会を実現していくためには、国民皆保険を堅持しつつ、持続可能な社会保障制度の確立が不可欠だ」とした上で、「非常に限られた財源の中、超高齢社会に対応する上での最重要課題である地域包括ケアの推進に向け、継続し

た改革のためにも必要な財源配分を行うことが重要である。今回改定では、前々改定、前回改定に引き続き、少ない改定財源の中、それなりの評価ができた」と認識している。今回の改定のポイントとしては、(1) 外来医療の機能分化と(2) 医療機能の評価、(3) 地域包括診療加算及び診療料について、より一層の推進を図るため、「24時間対応」と「在宅医療の提供」について見直しを行うなど、更なる要件



緩和を行った上で、「かかりつけ医療機能を有する医療機関の初診の評価を行うことができた」と述べた。

また、紹介率・逆紹介率の規定を満たさない大病院の長期処方に対する処方料・処方せん料・薬剤料の減算措置の適正化や、紹介状なしで受診した場合の定額負担の対象病院の拡大が行われたことに触れ、「こうした外来機能分化の中で、かかりつけ医療機能の普及に向け、今後の改定で更なる評価を求めていく」とした。

(2)では、業務分担・共同の促進、常勤配置・専従要件の見直し、24時間対応体制の要件緩和など、「医療提供の質の確保に配慮しつつ、より弾力的な運用が可能となるような見直し」がなされた。この見直しを示した。

(3)では、平成29年度末で設置期限を迎える介護療養病床の経過措置が6年間延期となり、同時に介護医療院が創設され、平成30年4月から順次転換していきけるようになったことについて、「これらに合わせて介護医療院の診療報酬上の取り扱いがその機能に応じて整理されたことは評価できると述べた他、地域包括ケアシステムの構築に向けて、きめ細やかな配慮がなされたことも評価した。

(2面)続々

日医・四病協合同記者会見

今回改定の六つのポイントを解説

引き続き行われた日医・四病協合同記者会見には、日医から横倉会長、中川・今村両副会長、松本(純)・松本(吉)両常任理事が、日本病院会から万代恭嗣・島弘志両副会長が、全日本病院協会から猪口雄二会長が、日本医療法人協会から加納繁照会長が、日本精神科病院協会から山崎学会長(代理:長瀬輝道副会長)が、それぞれ出席した。

横倉会長は、三師会合同記者会見で挙げた今回改

定の医科部分の六つのポイントを解説。(1)では、地域包括診療加算及び診療料について、より一層の推進を図るため、「24時間対応」と「在宅医療の提供」について見直しを行うなど、更なる要件

（1面より）

（4）では、国民皆保険の持続性とイノベーションの推進を両立し、国民負担の軽減と医療の質の向上を実現する観点から、「薬価制度の抜本改革を中医師協主導で検討し、これまでにない改革が実施されることは評価している」とした。

また、改定の度に入院基本料の要件が改定され、病院が対応に苦慮する中、「今回の新しい評価体系を各病院がどのように判断するか、従来のようにある程度の時間がかかると思われるが、中長期的な方向性を踏まえ、ある意味歴史的な改定がなされた」と述べた。

（5）では、各学会等からの提案を基に中医師協の医療技術評価分科会で検討の上、新規技術及び既収載技術の再評価が行われ、「財源が少ない中、医師の技術が適切に位置づけられたことについて評価している」と述べた。

（6）では、「都道府県においては地域医療構想を策定し、医療機能ごとの将来需要に応じて限られた医療資源をより効果的・効率的に活用した医療提供体制の構築が進められている」とした上で、将来の医療ニーズの変動・多様化に加え、支え手の急速な減少が見込まれている中、「入院医療の基本的な診療に係る評価と、診療実績に応じた段階的な評価を組み合わせた評価体系に再編・統合する方向となったことは、地域の医療ニーズと資源投入とのバランスをとる上で望ましい」との見解を示した。

一方、中医師協の審議の中で、重症度、医療・看護必要度の患者割合25%以上という要件に対し

て、残りの患者があたかも退院可能な患者であるかのような誤認があったことについては、不快感を示した。

また、改定の度に入院基本料の要件が改定され、病院が対応に苦慮する中、「今回の新しい評価体系を各病院がどのように判断するか、従来のようにある程度の時間がかかると思われるが、中長期的な方向性を踏まえ、ある意味歴史的な改定がなされた」と述べた。

（5）では、各学会等からの提案を基に中医師協の医療技術評価分科会で検討の上、新規技術及び既収載技術の再評価が行われ、「財源が少ない中、医師の技術が適切に位置づけられたことについて評価している」と述べた。

（6）では、「都道府県においては地域医療構想を策定し、医療機能ごとの将来需要に応じて限られた医療資源をより効果的・効率的に活用した医療提供体制の構築が進められている」とした上で、将来の医療ニーズの変動・多様化に加え、支え手の急速な減少が見込まれている中、「入院医療の基本的な診療に係る評価と、診療実績に応じた段階的な評価を組み合わせた評価体系に再編・統合する方向となったことは、地域の医療ニーズと資源投入とのバランスをとる上で望ましい」との見解を示した。

一方、中医師協の審議の中で、重症度、医療・看護必要度の患者割合25%以上という要件に対し

第6回「日本医師会 赤ひげ大賞」表彰式

5名の赤ひげ大賞並びに2名の選考委員特別賞受賞者を顕彰



表彰式の冒頭、主催者あいさつに立った横倉義武会長は、受賞者の日頃の献身的な医療活動に敬意を表した上で、「人生100年時代」と言われる中で、明るい高齢社会としていくためには、日頃からの健康管理が大変重要になっていくが、それとともに地域住民の方々に寄り添った形で医療を展開している赤ひげ先生に期待される役割も多様化するだけでなく、その重要性がますます高まっている」と指摘。日医としてもその活動に対してのバックアップに努めていく意向を示すとともに、参加者に対しても更なる支援を求めた。

受賞者の使命感と行動力に敬意—安倍総理
平昌冬季五輪開会式への出席のため表彰式に参列できなかった安倍晋三内閣総理大臣からは、受賞者に向けたお祝いのビデオメッセージが届けられた。

安倍総理は、住民の健康を守るうとする受賞者の崇高な使命感と行動力に敬意を示した上で、「先生方はまさに現代の赤ひげ先生」と言え、今回の受賞は全国津々浦々で地域医療に携わる医師の方々の励みにもなる」と述べるとともに、「全ての世代を通じて国民誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし、活躍するために、かかりつけ医を中心とした医療や介護が切れ目なく提供できる体制の構築に引き続き努めていく」とした。

静岡県の河井文健医師は、入局当時は振り返り、「寝る暇もなかったが、夢と希望を持った若い医師達が切磋琢磨していた」と回顧。「医師の仕事は時間で終わることはできないが、医師も患者も守られるような環境となることを期待している」とするとともに、若い医師達に向けては、「健康に注意しながら、赤ひげの精神をもって患者に寄り添ってほしい」と述べた。

岡山県の塚本真言医師は、「全国的に有床診療所が閉鎖されている中で、私が診療所を続けられたのは地域住民や病院、行政との連携に

喜びを表し、「日々の生活が困難な地域において、最期まで地域で安心して安全に過ごせるよう、地域住民と協力し地域包括ケアシステムの歯車の一つとして、今後も尽力していきたい」と意気込みを語った。

香川県の松原奎一医師は、「学校医をしている中学で始めた小児生活習慣病予防検診は、養護教諭や地域の小児科医など多くの方々の協力を得て実現することができた」と関係者に感謝の意を表明。「実父の急死により閉院するつもりだったが、患者に必要とされ後を継いだ。今では、患者の背景まで理解した上で患者に接することができるようになった。地域医療に携わることはいかとうことなのではないかと感じている」と述べるとともに、今後は、スマホを使用した食事指導を行う等、子どもの健康維持に地域ぐるみで取り組んでいきたいとした。

佐賀県の水上忠弘医師は、「全国的に有床診療所が閉鎖されている中で、私が診療所を続けられたのは地域住民や病院、行政との連携に

喜びを表し、「日々の生活が困難な地域において、最期まで地域で安心して安全に過ごせるよう、地域住民と協力し地域包括ケアシステムの歯車の一つとして、今後も尽力していきたい」と意気込みを語った。

香川県の松原奎一医師は、「学校医をしている中学で始めた小児生活習慣病予防検診は、養護教諭や地域の小児科医など多くの方々の協力を得て実現することができた」と関係者に感謝の意を表明。「実父の急死により閉院するつもりだったが、患者に必要とされ後を継いだ。今では、患者の背景まで理解した上で患者に接することができるようになった。地域医療に携わることはいかとうことなのではないかと感じている」と述べるとともに、今後は、スマホを使用した食事指導を行う等、子どもの健康維持に地域ぐるみで取り組んでいきたいとした。

佐賀県の水上忠弘医師は、「全国的に有床診療所が閉鎖されている中で、私が診療所を続けられたのは地域住民や病院、行政との連携に

喜びを表し、「日々の生活が困難な地域において、最期まで地域で安心して安全に過ごせるよう、地域住民と協力し地域包括ケアシステムの歯車の一つとして、今後も尽力していきたい」と意気込みを語った。

第6回「日本医師会赤ひげ大賞」（日医・産経新聞社主催、太陽生命保険株式会社特別協賛）の表彰式並びにレセプションが2月9日、医学生も含め約200名の参加者の下、都内で開催された。

本賞は、現代の「赤ひげ」とも言うべき、地域の医療現場で長年にわたる、健康を中心に住民の生活を支え、その地域のまちづくりの寄り添った活動を続けている医師にスポットを当て、顕彰することを目的として、平成24年に創設したものである。

ひげ先生に期待される役割も多様化するだけでなく、その重要性がますます高まっている」と指摘。日医としてもその活動に対してのバックアップに努めていく意向を示すとともに、参加者に対しても更なる支援を求めた。

受賞者の使命感と行動力に敬意—安倍総理
平昌冬季五輪開会式への出席のため表彰式に参列できなかった安倍晋三内閣総理大臣からは、受賞者に向けたお祝いのビデオメッセージが届けられた。

安倍総理は、住民の健康を守るうとする受賞者の崇高な使命感と行動力に敬意を示した上で、「先生方はまさに現代の赤ひげ先生」と言え、今回の受賞は全国津々浦々で地域医療に携わる医師の方々の励みにもなる」と述べるとともに、「全ての世代を通じて国民誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし、活躍するために、かかりつけ医を中心とした医療や介護が切れ目なく提供できる体制の構築に引き続き努めていく」とした。

静岡県の河井文健医師は、入局当時は振り返り、「寝る暇もなかったが、夢と希望を持った若い医師達が切磋琢磨していた」と回顧。「医師の仕事は時間で終わることはできないが、医師も患者も守られるような環境となることを期待している」とするとともに、若い医師達に向けては、「健康に注意しながら、赤ひげの精神をもって患者に寄り添ってほしい」と述べた。

岡山県の塚本真言医師は、「全国的に有床診療所が閉鎖されている中で、私が診療所を続けられたのは地域住民や病院、行政との連携に

喜びを表し、「日々の生活が困難な地域において、最期まで地域で安心して安全に過ごせるよう、地域住民と協力し地域包括ケアシステムの歯車の一つとして、今後も尽力していきたい」と意気込みを語った。

「横倉義武先生 世界医師会会長就任祝賀会」を開催 安倍総理を始め多くの参会者が世界医師会会長就任を祝う



「横倉義武先生 世界医師会会長就任祝賀会」が2月16日、都内のホテルで開催された。

横倉会長はWMA会長になるべくしてなられた方—安倍総理

祝賀会には、安倍晋三内閣総理大臣、加藤勝信厚生労働大臣等現役閣僚、関係団体、医師会関係者の他、世界医師会(WMA)からサー・マイケル・マーモット元会長、オトマー・クロイバー事務総長、加盟国医師会から韓国医師会ムー・ジョン・チュウ会長、台湾医師会ユン・タン・ウー元会長、タイ医師会ロンナチャイ・コンサコン会長、また、ハーバード大学「H. Chan公衆衛生大学院武見国際保健プログラムから、マイケル・ラ

「横倉義武先生 世界医師会会長就任祝賀会」が2月16日、都内のホテルで開催された。祝賀会には、安倍晋三内閣総理大臣、加藤勝信厚生労働大臣等現役閣僚、関係団体、医師会関係者の他、世界医師会(WMA)からサー・マイケル・マーモット元会長、オトマー・クロイバー事務総長、加盟国医師会から韓国医師会ムー・ジョン・チュウ会長、台湾医師会ユン・タン・ウー元会長、タイ医師会ロンナチャイ・コンサコン会長、また、ハーバード大学「H. Chan公衆衛生大学院武見国際保健プログラムから、マイケル・ラ

ために活躍して欲しい」と述べた。

サー・マイケル・マーモット元WMA会長は、「卓越した医師である横倉会長を会長として迎えられることは世界医師会にとっても大変光栄なことである」と祝意を表した。

また、オトマー・クロイバーWMA事務総長は、「横倉会長にはWMA会長就任前からWMAの活動に深く関わって頂いている」として感謝の意を示すとともに、「WMA会長として、今後もその指導力を存分に發揮

世界の人々の健康を守るよう努める—横倉会長

これらの祝意に対して、横倉会長は、感謝の意を表した上で、「日本人としてWMA会長に就任するのは私で3人目となるが、最初に武見太郎元会長が就任された際の

「横倉会長は、感謝の意を表した上で、「日本人としてWMA会長に就任するのは私で3人目となるが、最初に武見太郎元会長が就任された際の



ずやWMAにも大いに役立つものとなる」と述べた。

続いて、国際担当の道永麻里常任理事から、横倉会長ご夫妻に花束が贈呈された。

わが国の高齢化率は8%であった。それが今や27%となり、超高齢社会となったわが国がいかにしてその状況に対応していくのか、世界が注目している。明るい高齢社会としていくためには健康寿命を延伸していくことが必要であり、引き続きその実現に向けた取り組みを推進するとともに、WMA会長として、世界の人々の健康を守るよう努めていきたい」と決意を披瀝した。

引き続き、安倍総理、加藤厚労大臣らが登壇。「ヨイショ、ヨイショ、ヨイショ」の掛け声の下、鏡開きが行われた。

小池都知事は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの協力を求めるとともに、「世界の人々のため、横倉会長には日本ばかりでなく世界の医師を引っ張って欲しい」と述べた。



歓迎の後、今村聡副会長が、「本日は内外から多くの方々にご出席頂き感謝申し上げます。横倉会長には、これまでの日医会長としての経験に基づき、今後も日本のみならず世界の人々の幸福のために活躍して頂きたいと考えており、変わらぬご支援をお願いしたい」と参会者への謝辞を述べ、祝賀会は盛会裏に終了した。



クロイバー世界医師会事務総長



マーモット元世界医師会会長



小池都知事



高久前日本医学会長

平成29年度日本医師会医療情報システム協議会

「未来につながる日医IT戦略」を メインテーマに開催



平成29年度日本医師会医療情報システム協議会が2月3、4の両日、445名の参加者の下、「未来につながる日医IT戦略」をメインテーマとして日医会館で開催され、熱心な議論が行われた。

石川広巳常任理事の総務部会が開会。あいさつを行った横倉義武会長は、「日医は、平成28年6月に『日医IT化宣言2016』を策定し、安全なネットワークを構築

するとともに、個人のプライバシーを守ると宣言した。平成29年5月、改正個人情報保護法が全面施行されたが、地域医療連携、特に医療と介護の連携の現場においては、法改正を受けて、どのように運用すればいいのか迷っている現実がある。ぜひ、本協議会で議論を深めて欲しい」と述べた。

続いてあいさつした運営委員長の長瀬清北海道医師会会長は、「昨今の地

域医療連携においては、地域包括ケアシステムの有力なツールとして、地域医療再生基金を活用した医療介護ネットワークが構築されているが、導入時の初期費用は補助金で賄えるものの、運営費の捻出が難しく、持続が困難となっているところが多いと聞いている。今後、ICTの活用はますます重要になることから、現場目線での議論も深めて頂きたい」とした。

療現場への影響について特に医療・介護連携において「では、山本和徳個人情報保護委員会事務局参事官が、改正個人情報保護法のポイントと「医療・介護関係事業者

は、BYOD (Bring your own device) の利用について問題提起がなされたが、「ガイドラインでは、原則、BYODは使わず、

山本隆一医療情報システム開発センター理事長は、ITを使った医療連携における個人情報保護の現状と課題について報告した。

また、自見はなご参議院議員は、医療界にもシステムの安全に関わる情報を共有するセクターの設立が必要であると指摘した。

その後の指定発言で

2日目の「II. 日医IT戦略セッション」では、日医のIT戦略全般について、石川常任理事が報告。「III. 事例報告セッション」では、地域医療連携ネットワークの相互接続モデル中間報告3題と都道府県・都市区医師会単位の取り組み事例4題の報告があった。

中間報告では、小阪真二島根県立中央病院院長が、医療等IDなどいくつかの前提をつけた上で、異なる地域間(晴れやかネット・まめネット)での診療情報連携(IHJ準拠)を行うための実証実験の概要と課題について報告した。

浅尾高行群馬大学未来先端研究機構/ビッグデータ統合解析センター教授は、患者個人の特定と参加同意はマイナンバー

カードを、情報を送る側・受け取る側双方の医師の認証はHPKICARDをそれぞれ用いて、群馬大学からアップロードした画像情報を日本海総合病院が受け取ることで、互いに画像が見えるかを検証する事業や、より安価な契約形態による地域画像連携ネットワークの構築に向けた取り組みについて説明した。

比嘉靖沖縄県医師会理事は、「おきなわ津梁ネットワーク」へ接続することによる「在宅現場からのカルテやPACS(画像保存通信システム)の閲覧」「診療報酬のオンライン請求サービスの利用」「電子紹介状の作成」の他、臨床検査依頼・検査結果報告データ交換サービスなどを利用した実証事業について報告した。

南野哲吾香川大学医学部循環器・腎臓・脳卒中内科学教授は、かがわ医療情報ネットワーク(K-MIX)を活用した臨床試験の実施について説

明。「この取り組みを通じて県民に最新医療の選択肢を提供し、治験促進により若手医師が定着する方策にした」とした。

午後からは、「IV. AIによって変わる医療の未来」が行われた。

佐原康之厚生労働省大臣官房審議官(科学技術・イノベーション)は、AI活用に向けての厚労省の取り組みの概要を報告。「AIは人類の未来にとっても非常に可能性のある技術で、期待も大きい。厚労省では『保健医療分野におけるAI活用推進懇談会』を設置し、平成29年6月に報告書を取りまとめた。今後は、AIの開発を進めるべき重点6領域(ゲノム医療、画像診断支援、診断・治療支援、医薬品開発、介護・認知症、手術支援)を中心に政府全体で取り組んでいく」と述べた。

また、保健医療分野AI開発加速コンソーシアムを立ち上げる意向を示し、日医の参加を求めた。

溝上敏文日本IBM株式会社 Watson Health Solutions部長は、IBM Watson Health事業の状況と米国メモリアルローンケタリングがんセンターと共同で開発したがん診断支援のソリューション「Watson for Oncology」を、デモを交えて紹介した。

吉川健啓東京大学医学部附属病院22世紀医療セ

ンターコンピュータ画像診断学/予防医学講座特任准教授は、CAD (computer aided/assisted detection/diagnosis: コンピュータ支援検出/診断) を軸に、画像を交えながら具体例を提示。CADの問題点を解決し、臨床応用の促進を目指すプラットフォームとして開発されたCIRCS (Clinical Infrastructure for Radiologic Computation of United Solutions) についても解説した。

佐藤寿彦株式会社プレシジョン代表取締役社長/CEOは、「10年以上前からAIの基礎技術である機械学習の臨床利用を試みている」とした上で、医療現場において、AIがどのように利用されるかを基に説明。更に、全ての医療従事者が記憶に頼らず医療を提供することが可能となる疾患辞書付きの「今日の間診票」の作成にも取り組んでいることを紹介した。

閉会式では、次回担当県の諸岡信裕茨城県医師会会長が、次の協議会に向けた抱負を述べた後、運営委員会副委員長の藤原秀俊北海道医師会副会長が、2日間の協議会を総括し、閉会となった。

なお、本協議会では、「医師資格証」を使った出欠管理を行い、173名の利用があった。

台湾在宅医療学会来日研修 日台交流集会在開催される

台湾在宅医療学会の一行が2月5日、日医会館を訪れ、研修の一環として小講堂で行われた日本側の在宅医療関係者と意見交換をするための交流集会に参加した。

冒頭、日本側からは横倉義武会長、新田國夫日本在宅ケアアライアンス議長、鈴木邦彦常任理事、小川泰彦大阪梅田ロータリークラブ会長が、台湾側からは余尚儒同学会理事長、彭民雄台北天母ロータリークラブ会長がそれぞれあいさつを行った。

横倉会長は、来訪に歓迎の意を表した上で、日本の国民皆保険は「Universal Health Coverage」のあるべきモデルとして高く評価されており、昨年10月の世界医師会会長就任演説の中で、わが国の優れた医療システムを世界に発信し、グローバルな健康長寿社会の実現に日本の経験を生かしたいと表明したことに触れた。



また、日医会長に就任以来、「かかりつけ医の重要性を訴えてきた」とし、今後の「多死社会」においても、住み慣れた地域において、「かかりつけ医」を中心に、医療・介護の専門職、行政等の関係者が協力しながら、地域住民を支えていく仕組みとして「地域包括ケアシステム」を構築していくことが重要だと指摘。更に、医師が自ら研鑽し質の向上も図りつつ、現在の地域社会に求められる姿へと変革していくことを目的に「日医かかりつけ医機能研修制度」等の取り組みを行っているとした。

最後に同会長は、今回の研修が、日台両国の親善と在宅医療の推進に寄与することに期待を寄せた。

その後、横倉会長に台湾嘉義市の陶製の記念品及びロータリークラブ旗が授与された。

続いて、「日本の在宅医療の現状・課題・未来」と題して太田秀樹日本在宅ケアアライアンス共同事務局長が、日本では人口構造・疾病構造・疾病概念・医療需要等の変化により、医療の役割が「長寿を目指す医療」から「天寿を支える医療」へ、「病院完結型」から「地域完結型」へとパラダイムシフトしたと説明。在宅医療における医療機器等の技術発展や多職種協働についても紹介した。

在宅看護専門看護師である田中道子日本訪問看護財団あすか山訪問看護ステーション所長は、「日本における訪問看護の現状と課題」と題して、訪問看護の現状と「訪問看護アクションプラン2025」について概説した。

余理事長は、「台湾在宅医療の現状」について、1995年から全民健康保険（医療保険）を導入したが、介護保険は未導入であること、台湾総人口2350万人の介護の主役は23万人の外国人ヘルパー（100人に1人）であること、昨年4月に設立した同学会が市民啓発活動「在宅サロン」（在宅医療を考える会）を開始したこと等を説明した。

また、「台湾包括ケアサービス」については、涂心寧居家照顧聯盟理事長が、「台湾介護10年計画2・



その後、一行は6〜9日の日程で、静岡県及び神奈川県横須賀市の医師会と行政、都内近郊の医療機関及び訪問看護ステーション等で在宅医療やかかりつけ医活動の視察を行った。



ニュースポータルサイト「日医on-line」では定例記者会見の映像等、さまざまな情報をご覧頂けるようになっています。ぜひご利用下さい。

<http://www.med.or.jp/nichiionline/>

0」と台北市政府「地域包括ケアサービス（石のスープ）」を中心に解説した。

引き続き行われた討論では、会場から寄せられた質問に各演者が回答。予定時間を大幅に超えて会は終了した。

参加者は、台湾側29名、日本側21名の合計50名で、台湾側の参加者は医師、薬剤師、看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）、ST（言語聴覚士）、栄養士等で、多職種の間には初とのことであった。

南から北から

広島県
広島市医師会だより
No.612より

ポケベル

塩出 宣雄

昭和62年3月に大学を卒業し、4月から内科研修医となった。第1内科(消化器、循環器)、第2内科(呼吸器、循環器、内分泌、腎臓)、第3内科(神経)、原爆放射線医科学研究所内科(血液)の4科を2年でローテーションし、その後希望の科に入局するという。今の研修医制度の先駆けとなるカリキュラムであった。

当時のポケベルは、メッセージ機能はなく、呼び出し音のみのシンプルなものであった。ポケベルが鳴っても、どこから鳴らしたのか分からないので、原則は病棟の詰めで、実際に経験することなく、たたくことを学んだ。採血、点滴のやり方、カルテの記載や患者さんへの説明の仕方など、教科書には書いていないことも、指導医の先生に教えて頂いた。

当時は携帯電話はなく、病棟との連絡はポケベル(ポケベル)であった。院内、院外に関係なく、ポケベルで呼ばれた。医者になりたてで、急患で呼ばれる医師像に

あこがれていたこともあり、ポケベルで呼ばれることにワクワクする気持ちであった。出掛けた先でポケベルが鳴ったりすると、仕事をしている感じが高まったものである。

ただ、車の運転中に鳴ったりすると、一生懸命に公共電話を探したものである。また、乾電池式で、呼ばれ過ぎると電池はすぐに無くなった。

さんの容体が変わりないうちに、時々電話しなければならなかったという。

また、困った時の指導医の先生との連絡もポケベルであった。急いで連絡を取りたい時に、なかなかコールバックがないと焦ったりしたものであった。

今は携帯電話、スマートフォンと、いつでもどこでも電話もメールもネットもできる。スマートフォンがあれば、医学的な内容もすぐに調べることができる。分厚い本を持ち歩く必要もない。便利な時代になったものである。最近では、飛行機に乗っていてもメールのやりとりができるようになった。

若い研修医の頃と違い、病棟から呼ばれることも少なくなったが、ポケベルのピーピーという甲高い音に、びっくりして呼ばれていた研修医の頃が懐かしい。

(一部省略)

宮城県医師会報
塩釜医師会より
522号より

ドジョウが好きです

宮崎 浩充

ドジョウを眺めていると心が和みます。砂に潜って少しだけ顔を出している様子も、ちょろちょろ泳いでいる様子も、大変愛らしく心が癒されます。土管に隠れている様子も可愛らしいです。

ドジョウは、実はコイ目下ドジョウ科で、コイの仲間です。以前は日本中の田んぼで見られましたが、この頃は水路構造の変化や農薬の使用などで数が激減しているようです。

私は石川県能登半島の農村で育ち、小さい頃、田んぼでよくドジョウの姿を見掛けました。しかし、その頃の興味の対象はもっぱらカブトムシとクワガタであり、昆虫探

ども達が夏祭りでもらってきた金魚が3匹おり、水槽はセットアップされていたので、その晩に妻の了解を得て、早々にドジョウを2匹家に連れて帰りました。

底石を砂に替え、水草、隠れ家用の小さな土管も配置し、ドジョウ用の餌を買って求め、準備万端でドジョウをわが家の水槽に迎えました。

期待どおり、ドジョウたちは砂に潜って少しだけ顔を出して私たちを和ませてくれ、家族の中でも、特に私は毎日水槽を眺めてはここにこしていました。

当時使っていた水槽は上部フィルター式で、ふたの両脇にわずかな隙間が開いておりました。あのドジョウが1匹、姿が見えなくなっていました。砂にもぐっているのか、どこかに隠れているのか、思いがけないところから出てきたドジョウを発見しました。2、3日経っても姿が見えず、まさかと思

愛媛県
松山市医師会報
第319号より

双子は双子を呼び？

中村 純也

2016年11月、わが家に双子の男の子が生まれ、生活が一変しました。朝は子ども達の離乳食をあげてから病院へ行くので、今までより早起きになったし、早く帰れる時はなるべく早く帰宅するようにしている。夜は双子が交互に泣いて起きるため、1日3回くらいは起こされ、さながら当直のようである。

ハイハイ、つかまり立ちができるようになり、うれしい反面、同時に2人の面倒をみるのが大変になってきた。1人で毎日子ども達を世話している妻には頭の下がる思いである。

一番困るのは、妻が美容室に行く時である。一人で数時間面倒をみるこ

ら、甥たちが田んぼで捕ってきたドジョウが1匹おり、あまり面倒をみられないので、砂も洗って水槽でひっそり暮らしてきます。年に2度ほど帰省する際にこのドジョウに会うのが楽しみです。が、あまりこまめに面倒をみない方がよいのかも知れません。

いつになるかわかりませんが、家の環境が整ったら、またドジョウを飼いたいと思っています。

(一部省略)

とはできるが、その時間に病院から呼び出しがあったらアウトである。実際そのようなことがあり、妻が美容室へ行く時は、近くに住む義理のお母さん宅へ連れて行くのが恒例となった。本当に助かる。

私達は親戚にも双子はみえず、双子の育児は分からないことばかりである。まずはベビーカーを横のタイプにするか、縦にするかという問題がある。横にするか幅を取るのか、エレベーターやお店などの入り口に入らないことがある。縦にするか幅の問題は解決するが、前の子を確認しにくく、どちらに乗るかわかんなくなるかも知れない。実物を確認しようにも、双子用ベビーカーを展示しているお店はほとんどない。結局わが家は横のタイプで、なるべく幅の小さいものを購入した。

ベビーカーも問題である。後部座席に2つ設置すると横に大人が座れなくなるので、目が届きにくくなる。1つは後部座席、1つは助手席にすると、助手席の方は危険な気もする。結局、後部座席に子どもだけでは不安なので、助手席に1つ設置しているが、これの良いのかどうかは、いまだに分からない。

これまで双子について特別な関心がなかったせいなのかも知れないが、今まで双子を目にする機会はずっと無かった。しかし、双子が生まれてからというもの、双子に出会う機会が大幅に増えているように感じる。病院内でも双子をよく見かけるようになったり、○○さんのところも双子です「よね」なんて話し掛けられることも多い。お昼寝アートのイベントに行った際には、双子の親子と出くわして話をする機会もあった。

更には、先日同期にも双子の男の子が生まれた。双子は双子を呼ぶのでは?と思う今日この頃。まだまだ大変な日々が続くと思うが、楽しみながら子どもと共に成長していきたいと思っ

横倉会長

垣添日本対がん協会会長を激励



横倉義武会長は2月5日、九州がんセンターを訪れ、「全国縦断がんサバイバー支援ウォーク」

を実施中の垣添忠生日本対がん協会会長を激励した。垣添会長はこのほど、

日本対がん協会・がんサバイバークラブのサポートの下、全国のがんサバイバー(がんと診断されて治療中、あるいは治療後の人)にエールを送りつつ、日本国民にがんサバイバー支援を呼び掛けるため、全国がんセンター協議会加盟の32病院を徒歩で訪問する「全国縦断ウォーク」(2018年2月5日〜7月23日(予定)全行程約3500キロメートル)を実施することを決意。九州がんセンターが最初の訪問先となった。

※今後の全国各地への訪問予定の詳細は、日本対がん協会ホームページ(<https://www.gsclub.jp/walk>)に掲載されています。垣添会長が近くを訪問する際には、ぜひご支援・ご声援をお願いします。

町づくり

近年、いろいろな場面で「町づくり」と言う言葉が盛んに使用されている。

そもそも町とは、古来より交通の要所(便利の良いところ)に物流を中心とした経済活動が生まれ、人が集まり、住ま



リズム

ができて、生活に必要な生業(髪結い、療養所など)もその一部が自然発生的にでき上がって生まれてきたものと思われる。もちろん、強大な国家権力の下に強引に「都」を造

り上げた事例も認められるが、大多数の「町」は前者のパターンで成立してきたものであろう。現在、使われている「町づくり」とは、主に現存する町をより住みやすく快適なものに変えていく

こと(いわゆる、安全安心な町)、という意味に使われているが、町の存在に生活の基盤整備が必要不可欠なことは誰が考えても明らかである。では生活の基盤とは何であり、障害を持つ人や子育て

る。また、安心して生活するために、「医」は全世代を通して必須である。更に、高齢者世代になるにつれ、介護も必要となり、障害を持つ人や子育て

るだろうか?

老若男女にかかわらず、生活の基盤は何と言っても「衣・食・住」である。生産年齢世代にとっては生きるための生活の糧(仕事)の存在が不可欠であり、高齢者世代には自活に加え生活保障が必要となる。

また、安心して生活するために、「医」は全世代を通して必須である。更に、高齢者世代になるにつれ、介護も必要となり、障害を持つ人や子育て

て世代にもそれぞれの支援が必要であり……、どこまでも社会保障の基盤は広がり続ける。何を軸に「町づくり」をすべきか?という議論があるが、「衣・食・住」すなわち、まず生活できる基盤整備と「社会保障」という基盤整備のどちらが欠けても「町づくり」は上手いかわらないのである。現在、押し進められている地域包括ケアにおける「町づくり」の視点はどこに定められているのであろうか?

(7)

案内



平成30年度 日本医師会医療安全推進者養成講座

◆講習内容: 月1回のペースで受講者専用のホームページに掲載されるテキスト【予定】①医療安全対策概論②Fitness to Practice論③事故防止職場環境論④医療事故事例の活用と無過失補償制度⑤医療事故の分析手法論⑥医療施設整備管理論⑦医薬品安全管理論⑧医事法字概論⑨医療現場におけるコーチング術と演習問題を中心としたe-learning形式の講座。更に、10月14日(日)に日医会館にて開催予定の講演会に参加するなど、一定要件を満たした受講者には、日医会長より修了証を発行する。

◆受講料: 会員30000円、非会員50000円(税込) ※今回より会員・非会員の区分を新設した。日医

◆締切り: 3月15日(木) ◆受講方法: 受講希望者は、日医ホームページ内「医療安全推進者養成講座」の案内を参照してください。

◆応募方法: 受講希望者は、日医ホームページ内「医療安全推進者養成講座」の案内を参照してください。

◆受講期間: 平成30年4月〜31年3月 ◆受講対象者: 医療機関、福祉関連施設の職員及び都道府県・都市医師会

の苦情・相談受付窓口業務担当者等で、医療の安全管理に対する強い意欲と高い関心を有する者。ただし、受講の必須条件として、インターネットを使用できる環境(ホー

座案内(<http://www.med.or.jp/anzen/ky/8entry/index.html>)にある申込フォームに必要事項を入力してお申し込み願いた(直)

日本医師・従業員国民年金基金 案内

基金理事会・代議員会の開催 平成30年度事業計画・経理予算を承認

日本医師・従業員国民年金基金の平成29年度第2回理事・代議員会が2月15日、都内で開催された。当日は、直近の業務状況が報告された後、次の議案について審議を行い、承認された。

主な審議事項 一、平成30年度事業計画 二、平成30年度経理予算 三、合併に向けた今後の

資産運用面での対応 四、その他 なお、詳細については、基金ホームページを参照して頂きたい。

第141回日本医師会臨時代議員会 次第

日時 平成30年3月25日(日) 午前9時30分
場所 日本医師会館 東京都文京区本駒込2丁目28番16号

- 1. 開 会
- 1. 会長挨拶
- 1. 報 告
平成30年度日本医師会事業計画及び予算の件
- 1. 議 事
第1号議案 平成29年度日本医師会会費減免申請の件
- 1. 閉 会

いい いりょう 11月1日は 「いい医療の日」
日医では、11月1日を「いい医療の日」として、より良い医療の構築に向けて、国民の皆さんと考える日とすることを提案しています。(日本記念日協会から認定を受けました)